

確かな学力定着・向上のための指導方法の工夫改善（学びの変革推進）

現行の学習指導要領では、社会の変化が加速度を増す中で、これから学んでいく子供たちが大人になる社会の在り方を見据えながら、どのように知・徳・体にわたる「生きる力」を育むのかを重要視している。一方的に知識を得るだけでなく、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善をさらに充実させ、子供たちがこれからの時代に求められる資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けることをめざす。

【学校教育を通じて身につける資質・能力の三つの柱】

- ①生きて働く「知識・技能」の習得
- ②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成
- ③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性」の涵養

広島県で展開している「広島版『学びの変革』アクション・プラン」では、育成すべき人材像として、広島で学んだことに誇りを持ち、胸を張って「広島」「日本」を語り、高い志のもと、世界の人々と協働して新たな価値を生み出すことのできる人材の育成が掲げられている。様々な課題がますます変化・複雑化・高度化する先行き不透明な社会の中、これからの社会で活躍するために必要な資質・能力の育成をめざした教育内容の創造をめざす。

「課題発見・解決学習」をはじめとした児童の「主体的な学び」を促す授業改善（児童が自ら課題を見つけ、課題の解決に向けて探究的な活動をしていく学習）を、総合的な学習の時間をはじめ、各教科等の学習において推進する。そのために、これまでの「知識ベース」の学びに加え、「これからの社会で活躍するために必要な資質・能力の育成をめざした主体的な学び」を促す教育活動の推進をめざして、「本質的な問い」「単元を貫く問い」「個別の問い」を重視し、次のことに留意して単元構想・構成を計画する。

「本質的な問い」に基づいて、「単元を貫く問い」と「個別の問い」を立てて単元を構成する。単元を通して児童に考えさせたいことを、「問い」の形で書き表すことは、教師にとっても有効である。「単元を貫く問い」（教科等や単元・題材によっては根学習活動として設定）を示すことで、児童の「学びをファシリテートする」ことも進む。

【「課題発見・解決学習」の単元計画作成の留意点】

- ◎児童が各教科等の「見方・考え方」を働かせ、深く考えるような単元を貫く「問い」を設定する。
- ◎児童が個の学習進度や能力、関心等に応じて、多様な学びの選択肢を提供しその場を設定する。
- 目標に迫る「問い」を、児童から引き出す。
- 児童に課題発見の見通しを持たせ、個に応じた学びができる場を設定する。（既存の知識や経験、他教科等既習事項の活用等）
- 学びのゴールを明確にし、児童に課題解決に向かう必然性のある学習活動にする。
- 児童の深い学びを実現するための指導の工夫をする。
- 目標に向かって児童の深い学びが実現していく姿を具体的にイメージする。

教育課程の編制・実施・評価

- 学習指導要領に則って、授業時数の確保等、適正な教育課程の編制を行う。
- 各教科の年間指導計画を作成し、それに基づいて実施する。
- 週案を作成し、それに基づいて授業を実施し授業時数の確保を図る。また、1時間ごとに、つきたい力を明確にして授業を行う。
- 評価規準に基づき、達成度および課題を把握し、指導法の改善を図る。

基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着と、自ら考え、判断し、表現する力の育成

- 学習規律の徹底を図る。
 - ◇ 八重東型授業モデルに基づく一貫した指導【別紙参照】
- 授業における基礎学力の定着の工夫を図る。
 - ◇ ねらいを明確にした授業
 - ⇒広く知識・技能を習得する授業・論理的に表現する力を高める授業
 - 思考力・判断力を高める授業・学ぶ意欲を高める授業
 - ◇ 「授業づくりの3本柱」を生かした授業改善【平成28・29年度研究内容】
 - ◇ 個に応じた指導（個別に最適な学びの場を保障）
 - ◇ ICT（情報機器）を活用した情報の提示
 - ⇒GIGAスクール構想に基づく指導
 - ◇ 学び合いの場の工夫
 - ⇒八重東小学校コミュニケーションモデルに基づく指導【別紙参照】
- 学習環境の整備（掲示物や作品展示）
- ノート指導（思考を助ける為のノート、板書との一体化）【平成28・29年度研究内容】
- 授業だけではなく、日々の生活場面も大切に、児童相互の人間関係を深める。
- 朝の読書を中心に、読書活動を推進する。（八重東小読書100選、読書貯金の取組）
 - 【研究実践－学校図書館の三機能を活用した教育活動】
- 帯タイム（パワーアップタイム）を有効に活用する。【別紙参照】
- 家庭学習の習慣化と充実、「思考力・判断力・表現力」の育成を図るために、家庭との連携をより密に行う。
 - ⇒家庭学習と授業の連動を図る。（予習・予告に基づいたことを中心とした学習）
 - ⇒「家庭学習の手引き」を活用した自主学習の充実を図る。
 - ⇒「ひろしま」学びのサイクルに基づく家庭学習の充実

教職員の職能向上研修の充実

- 自他の人権を尊重する態度を養うために、人権教育を根底に据え、研修を進める。
- 授業公開および協議を積極的に行う。
⇒全体での指導案検討・模擬授業の実施，ICTを有効に活用した授業分析をする。
- 教育センター等の研修へ積極的に参加し，その内容を校内に還元する。
- 児童理解の場を設定し，児童実態や取組み等についての意見交流を行う。（毎週金曜日）
- キャリア教育，ことばの教育，食育，特別支援教育についての研修を行う。

八重東型授業の基礎・基本

～ユニバーサルデザインの授業づくりと学習規律の徹底をめざして～

北広島町立八重東小学校

【学習環境について】

<整理整頓>

- ◆提出物を出す場所や学習用具を片付ける場所等を分かりやすくし，整然とした環境にする。
- ◆黒板は，すっきりとしておく。その時間に必要でないものを掲示したり，書いておいたりしない。

<掲示物>

- ◆指導者・必要なことに児童の注意を向けるために，前面の掲示物は必要最小限にとどめる。（基本的に，黒板の上には学級目標のみ掲示する。）
- ◆側面に，「時間割表」や「話型」等の学習指導に必要なものを配置し，必要に応じて児童に提示できるようにする。

<机の並び>

- ◆一斉学習では，指導者と児童が正対するように机を配置する（通常は，弧状）。

<学習黒板>

- ◆見通しを持って学習できるように，週予定・本日の学習予定を丁寧に書く。

【授業前の指導について】

<整理整頓>

- ◆床にごみが落ちていないか，机の並び，机上のものがきちんと整理されているか確認する。
- ◆筆入れは机の中におさめさせ，その時間に必要な最小限度のもののみを机の上に置かせる。（「鉛筆1本と消しゴムを出しましょう。」など指示を明確に行う。）

<身だしなみ>

- ◆服のそでや，シャツ出し，ボタン止め，シューズのかかとふみなどについて，きちんと点検してから授業を始める。机の横のフックには，本袋以外かけない。（本袋の中は図書室で借りた本1冊と，3～6年生は国語辞典を入れる。）
- ◆机の背もたれに服をかけさせない。→ロッカーに入れる。（冬場のコートは，コート掛けへ。）

<姿勢>

- ◆両足の裏を床に付け，背筋をびんと伸ばし背もたれにもたれないようにする。

【授業について】

<授業始めと終わり>

- ◆日直は教卓前に出て号令をかける。
〔始め〕「腰骨を立てましょう。」「はい。」（※深呼吸する，3呼吸する）
「これから〇〇の学習を始めます。」「はい。」 「お願いします。」「お願いします。」
礼をする。（1・2・3は腰を曲げ，4で体を起こす）指導者も礼をする。

〔終わり〕「腰骨を立てましょう。」「はい。」（間・全体を見渡す）

「これで〇〇の学習を終わります。」「はい。」

「ありがとうございました。」「ありがとうございました。」(礼)

※授業の終了時刻を守る。延長授業はしない。とりわけ大休憩の開始時刻は守る。

<学習の流れの説明>

- ◆授業の始めに、本時の学習の流れを小黒板などにナンバリングで示し見通しをもたせる。
変更しない。(但し、学習内容や発達段階に応じて減らしていく支援も必要。)

<指示の仕方>

- ◆1回の指示は、1つの内容にとどめる。聞きながら書くなど、同時に複数のことをさせない。複数の内容を含む場合には、1つの指示した行動が完了後、次の指示を出す。
- ◆指示は、簡潔に、ゆっくり・はっきり出す(変更しない)。
- ◆学習の方法や順番、内容が視覚的に分かるような工夫をする。

<板書の工夫>

- ◆本時の目標(めあて)を明確に板書する。めあてやまとめを赤で囲むなどの工夫をし、日々の学びがひと目で分かるようにする。
- ◆チョークの色は基本は白色を使い、大切な所は黄色を使う。必要に応じて他色を活用する。
赤色は区切り線と○付けのときだけにする。
- ◆授業の途中で板書を消すことがないように、事前に板書計画を立てる。
- ◆ノートに写させる時間を設ける。

<学習指導の工夫>

- ◆授業の中に、学習の隙間を作らないようにする。
⇒一つの学習を終えたら、次にすることを明示しておく。
(指示を板書するなど個の時間差に対応する。)
⇒○つけのために児童を長時間並ばせない。
⇒基本・発展問題等、個に応じた問題を準備するようにする。
- ◆児童を学習に参加しやすくさせたり、学習を深めたりすることをねらって、ペアトークやグループ学習を効果的に取り入れる。(八重東型コミュニケーションモデルなどを参考にする。)
- ◆自力解決の時間は個別指導の時間ではなく、個々の理解を把握し、その後の学習を効果的に行わせる為の作戦タイムの時間とする。

<時間の厳守>

- ◆授業は、チャイムで始めチャイムで終わる。(45分で完結させる。)
- ◆タイマーを鳴らして急に終わったりするのではなく、「1分経過」「残り〇分」などと児童に伝えながら、時間感覚をつける。見通しを持って学習をさせる。

<発表の仕方と聞き方>【別紙参照「コミュニケーションの型」】

- ◆発表する人は、児童の中心の方向を向いて話す。
- ◆立つ時は椅子を机に収めず、くるっと回って椅子の横に出て立ち、発言する。
- ◆発表をする時は、前に出た意見と自分の意見をつなげて話すことや、相手が理解しているか反応を見ながら話をすることを意識させる。「△△くんの考え方について、私は…」「ぼくも〇〇さんの考えと似ていて…」「ここは〇〇ですよ。」など
- ◆聞く人は、発表者の方を向き、反応(相づちなど)しながら聞く。

<指導者の言葉づかいについて>

- ◆児童を指名する時は、姓で呼ぶ(「～さん」)。
- ◆発問・指示・説明等は、敬体(～です、～ます)で話す。

主体的な学びを創る「単元構想・構成」の策定にあたって

「課題発見・解決学習」をはじめとした児童の「主体的な学び」を促す授業改善(児童が自ら課題を見つけ、課題の解決に向けて探究的な活動をしていく学習)を、総合的な学習の時間をはじめ、各教科等の学習において推進する。そのために、これまでの「知識ベース」の学びに加え、「これからの社会で活躍するために必要な資質・能力の育成をめざした主体的な学び」を促す教育活動の推進をめざして、「本質的な問い」「単元を貫く問い」「個別の問い」を重視し、次のことに留意して単元構想・構成を計画する。

- 「本質的な問い」とは、生きること・学ぶことに係る問いであり、「自分はどう生きるのか」(人としての生き方)「自分は何のために学ぶのか」(学ぶ意義)「〇〇の教科を学ぶ意義は何なのか」(教科の目標)等である。
- 「単元を貫く問い」とは、教科等固有の「見方・考え方」を働かせながら、深く思考したり学習活動に向かったりするような「問い」である。
- 「個別の問い」とは、単元を構成する授業内で身に付ける知識・技能等に係る「問い」である。

【教員に求められる力】

- ◎質の高い「問い」を設定する力
- ◎単元を構想する力
- ◎児童の学びをファシリテートする力
- ◎デジタル機器を活用する力 等

「本質的な問い」に基づいて、「単元を貫く問い」と「個別の問い」を立てて単元を構成する。単元を通して児童に考えさせたいことを、「問い」の形で書き表すことは、教師にとっても有効である。「単元を貫く問い」(教科等や単元・題材によっては根学習活動として設定)を示すことで、児童の「学びをファシリテートする」ことも進む。

【「課題発見・解決学習」の単元計画作成の留意点】

- ◎児童が各教科等の「見方・考え方」を働かせ、深く考えるような単元を貫く「問い」を設定する。
- ◎児童が個々の学習進度や能力、関心等に応じて、多様な学びの選択肢を提供しその場を設定する。
- 目標に迫る「問い」を、児童から引き出す。
- 児童に課題発見の見通しを持たせ、個に応じた学びができる場を設定する。(既存の知識や経験、他教科等既習事項の活用等)
- 学びのゴールを明確にし、児童に課題解決に向かう必然性のある学習活動にする。
- 児童の深い学びを実現するための指導の工夫をする。
- 目標に向かって児童の深い学びが実現していく姿を具体的にイメージする。

【具現化に向けて<イメージ>】

《「本質的な問い」の明確化》

<単元でつけたい教科等の学力・本校でめざす資質・能力を、どの場面でどのように身に付けさせるかの明確化>

導入

■大単元を貫く問い(課題)の設定

- しかけのある問題提示(写真・図書資料・体験・実験)で、疑問等を持たせ学ぶ意欲高める
※既知・既習とのずれ、ギャップ(困り感・あこがれ)
- 学びのゴール(学ぶ目的等)を設定し共有する[特活・他教科等との関連を図る⇒学びの必然性・必要性
※単元で、学ぶことが社会や自分自身にどうつながる・役立つのかが実感できるゴールを設定する
<例ー学んだことを、〇〇の形にして□□に発信しよう or △△に役立てよう or 提案しよう 等>
- 解決方法の見通しを持たせる⇒みんなで解決する課題と個人で解決する課題の分類
- ゴールから逆設計した課題を設定する

展開

【授業において課題解決】

小単元を貫く問い①

個別の問い①

個別の問い②

個別の問い③

個別の問い④

小単元を貫く問い②

小単元を貫く問い③

...

※学習計画・1時間の授業において、学習進度や能力、関心等に応じて、多様な個別の学習ができる場、学び合いの場を計画的に位置付ける。(グループ学習・タブレット端末の活用などの工夫)

連動

【個人で課題解決】

- 家庭学習・自主学习
- ※図書資料・タブレット端末・自主学习のノートを活用
- ※学んだことを、授業に還元
- ⇒発表会等の場を設けたりレポート等を作成したりして学びを共有

終末

■学びのゴール(“学んだよかった”“成長の実感”)⇒新たな学びに向かう意欲

■単元学習を終えての「まとめ」「振り返り」

- ・何が分かったか、できるようになったか、何がまだ分からないのか等を自覚させ、友達と共有させる
- ・振り返りを自主学习(読書・調べ学習)につなげさせる
- ・学んだことを、その後の生き方・生活に役立たせる。

主体的な学びを目指す八重東型授業モデルA（基本）

＜授業改善のポイント ①導入の工夫 ②小集団学習と学び合いの充実 ③まとめと振り返りの充実＞

	学習の流れ	授業づくりの工夫と留意点	活用できるツール
導入（課題の設定）	○問題を把握する ・問題を読む ・問題に気付く	◆しかけのある問題提示で意欲高める ・実生活や他教科等とのつながり（困り感やあこがれ） ・既習とのずれ、ギャップ ◆児童の気付きで問題整理する	★視聴覚機器 ・電子黒板 ・タブレット端末 ・TV ・教材提示装置 ★具体的操作物 ★写真・表・掲示物 ★図書資料 等
	○見通しをもつ ・思考方法や表現方法について見通しを持つ	◆情報を整理し見通しを持たせる。 ・答えの見通し、解決方法の見通し ◆解決への意思決定を行わせる	
	○課題を設定する 【課題の設定法】 ・指導者と共に考える方法 ・指導者が途中まで示す方法 ・既習事項から考えさせる方法 ・前時に予想させておく方法	◆児童の言葉で設定する ◆ゴールから逆設計した課題を設定する ◆単元導入時には、単元を貫く課題を設定する（他教科との関連を見据えて単元構成を考える）	
展開 学び合い（情報の収集・整理・分析等）	○自力解決をする ・考えの根拠となる資料（図書・データ）や文章を見つける ・自分の言葉で考えを書く	◆タブレット端末機や図書、具体的操作物を活用させ調べさせる。 ◆学習ノートやワークシート、端末機に考えをまとめさせる。 ◆発問を繰り返したり変更したりしない ◆机間指導を行い、個々への支援を行う	★具体的操作物 ★図書資料 ★話し合いの視点 ★思考ツール ★図書資料 ★八重東型コミュニケーションモデル（別紙参照） 【モデル】 ・意見交流型 ・意見焦点型 ・創造型 ・アドバイス型 ・討論型
	○小集団で話し合う ・ペアやグループで話し合いをする ・八重東型コミュニケーションモデルに基づき、話し合いの目的を明確にして話し合う	◆目的や視点を明確にして話し合いをさせる [目的] ・自分の考えを整理する ・新しい考えに出会い、見方を広げる ・多様な考えから最良の一つを選ぶ ・協働して解決する [視点] ・それぞれの考えやよさの理解、共有 ・共通点・相違点についての理解、共有 ・関連性についての理解、共有 ・比較、検討、考えの一般化	
	○全体で話し合う ・小集団でまとめた考えを全体に伝える ・自分の考えとの共通点や相違点を考えながら話し合いことで学びを深める	◆タブレット端末等を活用して、考えや思いを共有する場を必要によって設定する。 ◆児童の考えをつなぐ声かけを行う ◆目的や視点を明確にして話し合いをさせる [留意点は同上] ◆指導者は、ファシリテーターとなることで児童の主体的な学びを引き出す	
まとめ・振り返り	○まとめる ・学習の成果を整理する	◆めあてに沿ったまとめをさせる ◆キーワードを使うなどして自分の言葉でまとめる	★振り返りの視点 ・新しく分かったこと ・できるようになったこと ・むしろしかったこと ・まだよく分からないこと ・今後調べてみたいこと ・生活に生かしたいこと など ★タブレット端末の活用 ・アンケート→集約
	○振り返る ・振り返りの視点を基に本時の学習を振り返る ・次時の課題を把握する。	◆視点を明確にして書かせる ◆学習後の自分への気付き ・何が分かったのか、何がまだ分からないのかを自覚させ、友達と共有させる ・振り返りを自主学習（読書・調べ学習）につなげさせる ◆次時の課題を提示し家庭学習・自主学習との連動を図る	

主体的な学びを目指す八重東型授業モデルB（「学び合い」重視型）

＜授業改善のポイント ①学び合いからスタート ②主体的な家庭・自主学習との連動＞

	学習の流れ	授業づくりの工夫と留意点	活用できるツール
前時学習	<p>＜学習の終末＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習して、分かったこと・解決できなかったこと、新たな疑問について整理する。（全体・個人） ◆解決に向けての見通しと方法、次時の学習課題・内容に確認をする。 ◆個人で学習する家庭学習・自主学習の内容について、確認をする。 		
<p>《 家庭学習・自主学習（個人での調べ学習・考えをまとめて書く等） 》</p>			
	学習の流れ	授業づくりの工夫と留意点	活用できるツール
導入	<p>○課題の確認をする</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆事前に、個人の一人学びの状況、考えや思いを把握して学習計画に生かす。 ◆本時の「学び合い」の方法・流れについて確認をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ★視聴覚機器 <ul style="list-style-type: none"> ・電子黒板 ・タブレット端末 ・教材提示装置 等
	<p>○小集団で話し合う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・八重東型コミュニケーションモデルに基づき、話し合いの目的を明確にしてグループで話し合う 	<ul style="list-style-type: none"> ◆グループ・全体で話し合いをさせる ◆目的や視点を明確にして話し合いをさせる <p>〔目的〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを整理する ・新しい考えに出合い、見方を広げる ・多様な考えから最良の一つを選ぶ ・協働して解決する <p>〔視点〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの考えやよさの理解，共有 ・共通点・相違点についての理解，共有 <ul style="list-style-type: none"> ・関連性についての理解，共有 ・比較，検討，考えの一般化 <p>【活動例】</p> <p>(1)協働から個人の考えを深める (2)協働で新しい深い考えを創り出す</p> <p>＜思考のプロセス＞</p> <p>個人検討⇒グループ協議⇒個人で再構築</p> <p style="text-align: right;">深い考えを創出</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>自分の考え A → ① → ② → ③ →</p> <div style="display: flex; align-items: center; gap: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 5px;">自分の考え A</div> <div style="font-size: 20px;">➡</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 5px;">自分の考え A + 他者の考え C</div> <div style="font-size: 20px;">➡</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 5px;">自分の考え C 新しい深い 考え D</div> </div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ★話し合いの視点 ★思考ツール ★図書資料 ★八重東型コミュニケーションモデル（別紙参照） <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【モデル】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意見交流型 ・意見焦点型 ・創造型 ・アドバイス型 ・討論型 </div>
展開 学び合い（情報の収集・整理・分析等）	<p>○全体で話し合う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小集団でまとめた考えを全体に伝える ・自分の考えとの共通点や相違点を考えながら話し合いことで学びを深める 	<p>＜タブレット端末の活用＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の意見を記入する→全員の考えを共有してグループで交流・まとめを作る→グループのまとめを各自のタブレットに分配し再編集する <p>＜KJ法の活用＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・考えの書き出し→考えの分類→表札を付ける→分類の視覚化→考えをまとめる 	
		<ul style="list-style-type: none"> ◆指導者は、ファシリテーターとなることで児童の主体的な学びを引き出す 	
まとめ・振り返り	<p>○まとめる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習の成果を整理する 	<ul style="list-style-type: none"> ◆めあてに沿ったまとめをさせる ◆キーワードを使うなどして自分の言葉でまとめる 	<ul style="list-style-type: none"> ★振り返りの視点 <ul style="list-style-type: none"> ・新しく分かったこと ・できるようになったこと ・むずかしかったこと ・まだよく分からないこと ・今後調べてみたいこと ・生活に生かしたいこと 等 ★タブレット端末の活用 <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート→集約
	<p>○振り返る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・振り返りの視点を基に本時の学習を振り返る ・次時の課題を把握する 	<ul style="list-style-type: none"> ◆視点を明確にして書かせる ◆学習後の自分への気付き <ul style="list-style-type: none"> ・何が分かったのか、何がまだ分からないのかを自覚させ、友達と共有させる ・振り返りを自主学習（読書・調べ学習）につなげさせる ◆次時の課題を提示し家庭学習・自主学習との連動を図る 	

確かな学力定着のための帯学習（朝・昼）・家庭学習の工夫

1 ねらい

毎日の「10分間読書」の習慣化を図り、静かに一日のスタートをきり、落ち着いて学習を進めることができるようにする。また、昼の時間に帯タイムを設定し、教科の基礎基本の学力の定着を図り、論理的な思考力や表現力の基礎を育てる。それらを家庭学習とつなげ、児童に「自ら考え、学ぶ力」を付ける。

2 朝の帯タイム

時間のめやす	月	火	水	木	金
8：15～	読書	読書	全校朝会	朝の会	読書
8：30～	朝の会	朝の会	(読書ボランティア)		朝の会
8：40			朝の会		

【朝読書の留意点】

- いつでも本をすぐに読むことができるように、常に借りている状態にしておく。
(借りた本は、机の横の本袋に入れてかけておく)
- 自分の読書量を把握し、意欲的に読めるようにするために、自分が読んだ本の名前と日付を記録して貯めていき、目標を設定して取り組むようにする。(読書の記録「読書貯金カード」)
読んだ後は、図書紹介カードなどにまとめる工夫をする。
- 八重東読書百選も計画的に読むように進んで取り組ませる。(読書百選の記録に残す)
- 本の読み聞かせで読書に親しむ。図書委員会、読書ボランティアの方、学級担任など

3 昼の帯タイム

時間	月	火	水	木	金
13：40 ～ 13：50	★算数科の内容 (ベネッセ, Crome book のドリル学習を中心に) ★SS タイム			★国語の内容 (ベネッセ, ことばのき まり, αドリルを中心 に) ★SS タイム	

【昼の帯タイムの留意点】

- 発展的な内容(文章題)や表現力向上に関する内容をミニ授業のような形で行ってもよい。
- Crome book を活用した調べ学習や、ドリル学習を行ってもよい。
- ソーシャルスキルトレーニングを計画的に行う。

4 家庭学習について

- 1年生20分, 2年生30分, 3年生40分, 4年生50分, 5・6年生60分をめやすに行うようにする。
- 生活の中に家庭学習を行う時間を位置づけ、集中して取り組める環境作りに協力してもらう。
- ※発達段階に応じて、自主的な復習・予習ができるように指導する。【別紙参照「自主学習の例」】
保護者へ協力依頼をする。(4月のPTA総会で配布する「家庭学習のすすめ」)
→ 家庭学習の時間・内容・関わり方、勉強の姿勢、学習用具・ノートを使い方 など。
- 学年に応じた家庭学習の約束・手引きを作成し指導する。【別紙参照】